

学校だより



稲荷台

令和元年10月31日

11月号

横浜市立稲荷台小学校

のめり込むことから・・・

副校長 山口恭史

26日に行われた研究発表会には、横浜市内のみならず、県内の小学校の先生方が200名ほど参加されました。稲荷台の子の学習に向かう姿勢や意欲、友達と学びあう姿等、それまで地道に積み重ねてきた多くの良さが発揮される一日になりました。PTAの方々には、案内等たくさんのお手伝いをいただき感謝申し上げます。

ずいぶん前のことになりますが、体育で鉄棒の指導をしている時、ある一人の子は友達にアドバイスをもらいながら、何度も何度も「後方支持回転」に一生懸命挑戦していました。授業の後半、「できた。」という声上がり、その子は初めて「後方支持回転」をすることができました。すると、その子は友達に背を向けて泣き始めました。涙はうれし涙です。私にとっても胸が熱くなった瞬間でした。

さて、「一意専心(いちいせんしん)」という四字熟語があります。他に心を動かされず、ひたすら一つのことに心を注ぎ、集中するという意味です。人が成長するためには、必要なことだと思います。

自分の人生を思い返しても、わき目も振らず頑張っていた時期がありました。学生時代はスポーツに打ち込み、選手や指導者としてサッカーに没頭していました。技術が向上しただけでなく、そのことを通して多くの人と出会い、生きる上で大切なことをたくさん学ぶことができたと感じています。教師になってからも、一人前の教師になるべく、無我夢中になっていた頃がありました。その時期に人間的にも一番成長できたと感じています。今思うことは、やはり継続すること、地道に頑張ることはとても大切で尊いということです。

大きな怪我をしてから、ずっと運動から離れていましたが、5年前からランニングを始めました。走るの辛い時もありますが、とても気持ちが良く、体が昔のように動くようになり大きな喜びを感じています。やはり自分は運動が好きだと実感し、自分の喜びは昔と変わっていないことに気づきました。

楽器の演奏をしている娘は、演奏している時に喜びを感じるとよく言います。先日娘とこんなやりとりをしました。「走るの楽しいけど、やはりきつい時があるんだよね。でもあなたはいいね、楽器だから、頑張らなくても、ずっとこれからも楽しめるよ。」娘は瞬時にこう言いました。「それは違う。楽器だって演奏できればいいってもんじゃない。よい音が出せないと納得がいかないし、よい音を出せて初めて喜びを感じられる。よい音を出すにはやはり練習しないとイケない。」その時私は、毎日こつこつ積み重ねることが何にでも必要であり、やはり本当の喜びや成長は、頑張ったその先にあるんだと改めて感じました。

稲荷台小学校では、学習や委員会・クラブ活動、そして休み時間には遊びに夢中になっている姿が多く見られます。これからも、子どもたちが夢中に活動しながら喜びを感じ、成長できるような学校になるよう、職員一同取り組んでいきたいと思っております。これからも、学校へのご協力やご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



自分とみんないいいいいな 稲荷台

